# わがまち魅力化プロジェクト $\sim$ サステイナブルな地域社会の創生事業 $\sim$ 【 概 要 版 】

## 1. 本事業の背景と目的

現在、わが国において少子高齢化、人口減少が進む中で、特に地方ではその影響が大きく、 過疎や産業の衰退等、住民の暮らしに直結する課題が山積している。一方で、各地域には魅力ある資源(自然、文化・伝統、工芸、農水産物、歴史等)が存在しているのも事実である。 多様性豊かな地域を残していくためには、その地域の魅力を発掘し、磨き、それを伸ばしていくことが必要であり、それが地域の豊かさや幸福へとつながる。さらに、そのような地域の魅力を効果的に発信することで、その地域に目を向けてもらい、交流やインバウンドにもつなげられる。各地域には、そのようなポテンシャルが存在する。

現在、日本各地で実践されている地方創生関連の多様な取組の中でも、地域課題の解決に 導く一つの手段として、「地域外」の視点や「若者」の視点の活用が注目されている。しか し、地域外の若者(大学生等)が地域課題の解決に取り組む上で、活動の継続性や組織的な 支援などの課題も指摘され、また地域と大学生との間を仲介するコーディネーター的な存 在が不可欠との指摘もある。若者の発想と行動力を地方創生や地域の魅力化に資する力に 変えていくためには、地方と若者のつなぎ役としてシンクタンクの役割も大きい。

本事業では、複数年の事業期間を想定し、1年目の事業ステップとして、関連する取組事例の情報収集を行い、さらに 2016 年(平成 28 年)より実践されている「日野町魅力化プロジェクト」(※)への参画を足掛かりに、**日野町でのフィールドワーク等を通じて、サステイナブルな地域社会の創生に向けた取組のあり方、取組推進のためのプラットフォームのあり方等を検討**した。

#### ※日野町魅力化プロジェクトの概要

2016年(平成28年)より、鳥取県日野郡日野町において、学生によるまち歩き プロジェクトを実施。プロジェクトの目的は、高齢化と過疎で悩む日野町をフィールドに、大学生がまち歩きや体験等を通じて、まちの課題や魅力を探ること。

- 行政・地域(窓口:企画政策課、地域おこし協力隊、協力:町議会、地域住民(ホストファミリー等))と、都市と地方の学生(東京富士大・鳥取大・島根大)がコラボレーション。
- 「産業」「観光」「生活」の3テーマに分かれて、日野町でのまち歩きや体験を通じて、地域課題やまちの魅力を探り、学生から事業化アイデアを提案。
- まち歩きは年1回(2016年~、夏季休暇中)実施、 毎年、検討テーマを設定。



## 2. 本事業(1年目)の概要

本事業は、複数年(3年間予定)の事業期間を想定し、まず初年度の取組として、以下の点について重点的に**情報収集及び調査研究活動**を行った。

### ① 全国事例(先行事例)の情報収集

学生によるまち歩き活動等、地域活性化に向けた取組事例や取組促進のためのプラットローム等の情報収集・整理(先行事例研究)

- ➤全国事例(先行事例)を対象学生と派遣先、活動内容の特徴から分類。10 事例について情報を収集・整理した。
- ➤活動推進上の課題は、主に**①**参加学生の確保、**②**新規・継続自治体の確保、**③**事務局機能の整備(体制整備)に集約が可能である。
- ➤ ① と②に対しては、学生や自治体との継続的なコミュニケーションが不可欠。③ に対しては、学生主体という特徴は残しつつも、別組織の関与やプラットフォーム形成による組織的なバックアップも必要である。特にシンクタンクは中立的な立場から、学生と地域、様々な関係者・機関との「つなぎ役」を担える可能性がある。
- ➤学生をはじめ若者の発想や行動力は、地域の活性化や魅力化に資する力になり得る。その力を各地に広げていくには、大学のほか複数の機関・組織が連携しながら、より効率的に実践活動を進めていくことが望まれる。

#### ② 鳥取県日野町でのフィールドワーク

現地での地域情報収集・整理(地域住民や地域おこし協力隊等の関係者へのヒアリング)、日野町魅力化プロジェクトの実践活動への参画(※)、フィールドワークから得られた示唆のとりまとめ。

フィールドワークの活動成果は、**地元の日本海新聞、中海テレビ、鳥取県の Web サイト 等で紹介**。

※本年度の日野町魅力化プロジェクトは 8/21~8/25 の 5 日間、「産業」「観光」「生活」の 3 テーマに分かれてフィールドワークを実施。



日本海新聞 (8/29 付)



鳥取県 HP「日野ごよみ」 (http://www.pref.tottori.lg.jp/item/1090821.htm)

- ▶地域資源の組合せによって、「日野町ならでは」、「日野町といえば…」のブランド創出を図っていくこと、そのためのアクションプランの作成と実践(事業化)につなげていくことが必要。実際、今回の学生からの提案からは、日野町の地域資源である「オシドリ」と「金持神社」を組み合わせ、"オシドリが取り持つ縁"をストーリー化した、ご当地婚姻届「オシドリ婚姻届」が企画・制作された。
- ▶地域づくりの主体は、そこに住む地域住民である。地域住民と若者やヨソ者の力を融合しながら、地域住民が自ら地域のことを考え、行動していくことが、サステイナブルな地域づくりには不可欠である。

"町民自らがこの地域のことを考え、実行すること"を前提に、「人づくり」「場づくり」 「生業づくり」という観点から、今後の事業プランを町(行政)へ提案した。

## 3. 今後の事業方針(2年目以降)

- ① 日野町への事業提案
- ➤次年度(2018年度)、3年目(1年目は予備的調査実施)となる日野町魅力化プロジェクトの実施
- ➤派生事業として日野町(行政)への事業提案(住民 WS の開催や調査の実施、個別事業 化プランの検討等一部提案済み)⇒活動のプログラム化・パッケージ化のさらなる検討
- ② わがまち魅力化プロジェクト(共同研究)のさらなる展開
- ▶実践フィールド(地域)の新規開拓や参加学生の拡大
- ➤学生まち歩き活動の推進母体としてのプラットフォームの具体的検討(フレームワーク、プラットフォームの機能、他団体との連携方法、実践活動の評価方法等)
- ➤地域における幸福度研究(地域住民へのヒアリング等、質的データの収集、データベース蓄積)
- ➤日野町の知見等の他地域への応用可能性に係る F/S 調査(具体の事業化と事業の発展 に向けて)

発行 一般財団法人社会開発研究センター (SDRC)

一般財団法人日本総合研究所(JRI)